

第1回 室蘭市観光拠点づくり検討委員会 議事録

開催日時：平成29年7月21日（金）14：00～16：00

開催場所：室蘭市役所2階3号会議室

出席者：委員：石田 仁、越後 美咲、高木 創、永井 真也、野村 滋、
羽田 隆、三岡 照之、山田 一正

事務局：青山 剛（市長）、和野 泰始（経済部長）、伏見 聡（観光課長）

佐藤 雅人（同主幹）、小笠原 洋一（同主任）、柳井 健史郎（同主事）

傍聴者：報道関係者2名（冒頭のみ、会議は非公開）

委員会の概要：

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 委員の委嘱
4. 委員の自己紹介
5. 室蘭市観光拠点づくり検討委員会設置要綱
6. 委員長、副委員長選出
7. 議題 ①検討委員会の設置について
②エリアの特徴について
③現状の課題について
④検討事項について
⑤今後のスケジュールについて
8. 閉会

1. 開会

- ・事務局よりあいさつ

2. 市長あいさつ

- ・市長よりあいさつ

3. 委員の委嘱

- ・市長より委嘱状の交付

4. 委員自己紹介

- ・各委員より自己紹介

5. 室蘭市観光拠点づくり検討委員会設置要綱

- ・事務局より要綱の説明

6. 委員長、副委員長選出

・委員長 永井 委員 ・副委員長 羽田 委員

7. 議題 (①～⑤)

■事務局

議事についてご説明させていただきます。

これまで、道の駅周辺では、駐車場や売店の拡張、動線を意識したサインや Wi-Fi の設置等を行い、魅力アップに取り組んでまいりました。

しかし、飲食や情報発信の面など、満足を得られていないことや平成 28 年 3 月の北海道新幹線の開業など交流人口拡大へ向けた好機を迎える中において、地域経済の活性化につながる観光拠点のあり方を検討する必要があることから、委員の皆さま方のご意見を伺いながら、今後の方針を慎重に検討するとともに、今回の委員会の検討結果を最終的に提言という形でいただきたいと考えております。

次に、道の駅周辺エリアの特徴についてご説明いたします。

当該エリアでは、海洋レジャーほか、道の駅、屋台村、水族館、温泉ゆらら、パークゴルフ場など多くの集客施設が集積しているエリアでございます。

次に、現状の課題についてご説明いたします。

エリアの課題としては、水族館やパークゴルフ場の冬期閉鎖により、エリアとして冬期の集客力が少ない点や幹線道路沿いではないため、立ち寄るスポットではなく、目的地として行く場所にならざるを得ないという立地面の課題があります。

また、施設の課題ですが、「白鳥大橋記念館」として建設した後に、「道の駅」に指定したため、販売施設がメインとなる「道の駅」のスタイルにできなかったという経緯がございます。

更に、本市の特産品やお土産、グルメを提供する機能や情報発信機能が不足しているという課題も挙げられております。

また、これら当初の機能補完を目的のひとつとして建設された屋台村でございますが、立地や、集客などが課題となっております。

説明は以上でございます。

■委員長

ただいまの説明に対してご質問等ございませんでしょうか。

■委員

最終的な結果については、祝津地区、道の駅、というところなのでしょうか。それとも全市的なものなのでしょうか。

■事務局

まずは祝津地区、地域を中心とした観光拠点のあり方について、そこを中心とどのような方向で進めていくべきかを議論していただきたいと思います。

■委員

今こうして委員が集まっているが、実際この場に各施設の関係者がいた方が良いのではないかと思います。

■事務局

関係者が参加しておりますと、意見を言いづらくなると考えております。

ただ議論の内容については関係者の皆さんにも必ず説明していきたいと思えます。

また、委員会の参加とまではいかないまでも、オブザーバーとしての参加も考えられると思えます。

■委員

実際ハード面でどこまでできるのか。ソフト面はアイディア次第で何とかできると思えますが。

■事務局

ハード面については、もともと物販、飲食を前提とした施設ではないので、例えば厨房をつくるにしても、配管を通せる場所というのが限られております。その中でどういう改修ができるかについては本市の建築課とも協議しているところでありまして、既存の施設のまま何をできるかというのは2回目以降の会議におきまして、図面等お示ししたいと思います。

■委員長

いろいろ意見が出たところでありますが、次にどういう人をターゲットに集客していくかというところであります。

道内の客、たとえば札幌から日帰りとか皆さまがどういうイメージを持っているか、インバウンドまで含めるのか。

■委員

「室蘭」と聞いた時にやはり「鉄」であり観光のイメージは薄い。最近は工場夜景などあるが、それでも室蘭を目的地とするかとなるとそうはならない気がします。

■委員

登別に泊まる、または日帰りで帰る方が多いと思うので、いかにして泊まってもらう、滞在時間を長くしてもらう、お金を落としてもらうかというのが室蘭市の課題と考えます。

昨年どういう方が室蘭を訪れているかの調査を行ったときに、カップルやキャンピングカーの利用者が多いという結果が出ました。

■委員

実際キャンピングカーやワゴンは多く、静かだし、温泉も近くにあり、良い環境だと大変評判が良いです。

■委員

カップルについては景色をみたり、ご当地グルメを食べたりしに来るといった意見が多かったです。しかし宿泊しているかという点においては北海道平均を下回る結果となりました。

■委員長

なるほど、キャンピングカーやカップルは来ているがあまりお金は落ちていないという事ですね。

■委員長

水族館などは年間パスポートがあって多くの人が訪れていると思うが、中に入ってしまうと食べるものが無いです。それを外に出てきて食べるような仕組みがあると良いが。

■委員

今現在、道の駅「みたら」の観光客数が50万人～60万人という状況で、実際に道の駅「みたら」の中にある物販がどのくらい売れているのか、販売額、客数などといった定量的なデータを基に展開していくべきではないでしょうか。

■事務局

今回は初回ということで用意していないが、次回以降について、これまでに行った調査結果や、売り上げ等定量的なデータ、また改築すると仮定した際の地下の配管図など議論いただけるような資料は準備する予定です。

■委員

祝津の商店街は道の駅に出店していますね。

■委員

GWなど連休や夏休み期間など出店しています。

■委員

冬場は厳しいものがあります。年間を通して採算がとれるにはどうやっていくかというのが課題です。

■委員

他の道の駅の例でいいますと、いきなりハード面の整備をするのではなく、まずは小規模な出店などを積み重ねて、うまくいったことから本格的な整備を行ったというのがあります。

■委員

季節変動という点でいえば、ニセコの例が挙げられます。そこにはオーストラリア人の商売をしている人がいるが、彼らは冬場だけに全力を注いで営業し、夏場は自国に帰ってのんびり暮らしているようです。

■委員

エリアについては、港湾用地の部分も整備する考えでいるのでしょうか。

■事務局

範囲を広げますと、実現性が薄くなると懸念しておりまして、今ある施設を活用してどう展開しているかを中心に議論していただきたいと思っております。

■委員

現在、道の駅「みたら」の中では民間業者は商売ができるのでしょうか。

■事務局

現在はできないので、来年度条例を改正し、できるようにしたいと考えております。
ただ、管理についてはこれまでどおり観光協会に委託という形は変わりません。

■委員

今、札幌から夜景を見にツアーバスが来ているが、売店の時間を延長してほしいという声があります。

■委員

今でも市内の夜景見学バスの際は延長しています。

■委員

施設はそろっているのだから、夜景を売りにしているのであれば、今後そういう対応も考えていかなくってはならないだろうと思います。

■委員長

雑誌で道の駅を紹介されたことはあるのでしょうか。

■委員

主に道の駅や水族館が取り上げられています。

■委員長

取り上げ方としてはどのような感じでしょうか。

■委員

「室蘭」という特集ではなく、切り口としては道内の「道の駅」「水族館」として取り上げられています。道の駅「みたら」についてはやはり飲食というよりは景観メインの記事になっています。

■委員

景観については、お客さんからとにかくすばらしいとの声を多く聞いていて、景色に関しては一定の評価をいただいていると思いますが、その反面ハード面に関しては、観光施設が少ないなどの声も多いです。

■委員

もっと「目的地」になるような体験観光であるとかを考えるべきだと思います。

■委員

イルカクジラウォッチングなどの体験型はありますが。

■委員

森蘭航路の影響というのはどうなのでしょう。

■委員

出航可否の点で、波・風・霧など条件が厳しく、安定した実施ができていません。

■委員

道の駅の好事例として、伊達の道の駅があります。民間の人が入って、自分たちで儲かるように創意工夫を行ってお客さんを呼ぶという仕組みだそうです。

■委員

伊達ではレジとスマホと連動した品物管理などを行い、地元の農家の参加を促しています。

また、北海道寒地土木研究所では道の駅についていろいろな研究を行っていますが、どれくらいの地元の人がその道の駅に携わっているかで、良い道の駅かどうか表れてくると話をされていました。

■委員

まったくそのとおりだと思います。地元の人にどう火をつけるか、そのために関係機関がバックアップをしっかりとする必要があります。またメディアの力も借りながらやっていくことも重要だと思います。

■委員長

次回からコンサルタント業者が加わるとの事だが、こういった役割になるのでしょうか。

■事務局

コンサルタントに関しては具体案提示の際のデータ作成、図化、また今後の委員会の進め方などの支援業務を依頼します。

■委員長

では最後に委員全員より一言お願いします。

■委員

段階的にやる必要があると思います。第一段階として、まず基本的なハード整備、その後も短期的、中期的といったような時間的な概念を意識しながら整備を進めていけば良いと思います。

■委員

室蘭の道の駅「みたら」は幹線道路から奥まった場所にあるので、どう目的地としてもらうかが大事だと思います。道の駅周辺を見ると、注目すべきは水族館かなと思います。歴史があり、ノスタルジックな雰囲気があるので、もっと注目してもらい、その人たちをいかに道の駅に持ってくるかを考えるとよいでしょう。

■委員

この委員会に出席させていただいて感じることは、今までもいろいろな会議に出席したが、今回は本当にやる気を感じています。これを持続して行って、良い結果につながればと思います。

■委員

道の駅に入ったときに何をかうか。カレーラーメンをはじめ特産品の充実が必要です。何を魅力に売っていくかといったところが課題かと思います。

■委員

施設の個性を活かして何か具体的に取り組むことが第一歩なのかなと思います。またいろいろな補助制度を活用しながら財源を確保すると良いと思います。

■委員

民間との連携が大事だと思います。また立地的な点からいかに目的地となりえるような整備をするかが重要だと思います。

■委員

今現実問題としてあるのは洞爺、登別という温泉観光地に挟まれている状況で、通過地として観光客に捉えられている事でもあります。いかに室蘭で滞留してお金を落としてもらえるような仕組みづくりをしていくかというところを、皆さんで意見を出し合い考えていければと思います。

■委員長

今回は問題提起がたくさん出たところで終了としたいと思います。

■事務局

今回皆さまにはたくさんのご意見をいただきありがとうございました。今回は第1回目、現在の課題と皆さんの道の駅に対する思いなどを自由に話していただいたところであります。

次回につきましては、道の駅の基本的なデータ等については提示しながら進めていきたいと思ひます。
それではこれで検討委員会を終わります。どうもありがとうございました。